

かさま社協だより

No.16



編集・発行 2011.12.15

社会福祉法人笠間市社会福祉協議会広報委員会 笠間市美原3-2-11 TEL.0296-77-0730
E-mail info@kasama-syakyo.jp URL http://www.kasama-syakyo.jp/



中央支部ふれあいレクリエーション（友部地区）

撮影 横堀

も く じ

① 第61回茨城県社会福祉大会	2
② 在宅ケアチーム員研修会	3
③ 社協ってなあに？	4～5
④ 支所だより	6～7
⑤ お知らせ	8



この広報誌は共同募金の配分金を受けています。

第61回 茨城県 社会福祉大会

本大会は、これまで多年にわたり社会福祉の発展に功績のあった個人・団体を顕彰し誰かが安心して暮らせる福祉社会を推進することを目的として、10月17日、結城市市民文化センターアクロス大ホールにおいて開催されました。

笠間市関係者も日頃の活動が認められ5人の方が顕彰されました。

茨城県知事表彰
民生委員・児童委員
鶴岡 雅子 (笠間地区)
古沢 洋子 (笠間地区)
社会福祉援助功労者
西山 澄兄 (岩間地区)

茨城県社会福祉協議会会長表彰

社会福祉協議会役員
山田 昇 (岩間地区)
社会福祉施設職員
仁平 朝子 (笠間地区・てらさき保育所)

パネルディスカッション

パネラー紹介
ひたちなか市連合民生委員・児童委員協議会会長
神保 忠正氏
北茨城市ボランティアグループ連絡会相談員
久保田三枝子氏
同仁会子どもホーム家族支援専門相談員
佐藤 大氏
つくば市社会福祉協議会事業促進室地域福祉グループ長
刈谷由紀子氏

東日本大震災を乗り越えて

「地域福祉活動とおして考えること」をテーマに、常磐大学ヒューマンサービス学科中村英三准教授をコーディ



ネーターに、民生委員・ボランティア団体・児童擁護施設職員・社協職員の4人の方々がパネラーとして出席され、震災に際し活動された体験などについて意見交換が行われました。

その内容を要約しますと、

◆**地震発生直後の活動は、パネラーの立場、地域によって異なりますが、民生委員や社協職員の方は、ひとり暮らしの高齢者・体の不自由な方の安否確認。ボランティア（北茨城市）の方は、津波の危険を知らせる声かけ・子ども達の避難所への誘導。児童擁護施設の職員は、入所児童の安全確保など人命にかかわる活動**

をされました。

そして、時間の経過とともに避難所での食料の確保、炊出し、配食など生活面の支援活動に移行されていきます。

◆**当初の食料は、備蓄食や行政からの支援・地域住民の協力により充当しましたが、一部地域では、スーパーやホテルなどからの支援を受けたところもありました。**

また、地域によつては、飲料水として、井戸水・湧き水・簡易水道が利用されました。

◆**今回の災害に対して、各パネラーとも防災講座や訓練が役に立ったという発表がありました。更に今後は、今回の経験をいかしてより実践的に行ってみたいというパネラーもありました。**

◆**安否の確認については、要支援者名簿に基づき実施したが、不在者が多く苦労したとのこと。しかし、隣近所の方々の協力により確認できた例が多くあり、ありがたかったという発表もありました。**

◆**自主的なボランティアについては、災害ボランティアセンターや避難所の開設につれて増加し、炊出し、配食など**

いろいろの分野で活躍されました。

特に、つくば市では、一般ボランティアの他に、筑波大学生など学生だけのボランティアチームが結成され、若い力が発揮されたという紹介がありました。

北茨城市ではボランティアとは異なりますが、消防団員が津波によるガレキの撤去や避難者の搬送などに活躍されたとの紹介もありました。

要約すると以上のようなになりますが、各パネラーとも、今回の活動を通じ、地域とのつながり、人とのつながりの大切さを再認識されたと述べられておりました。

最後にコーディネーターから大災害という混乱するなかで、県社協がリーダーシップを発揮し市町村社協を指導され、市町村社協もまた行政と両立しながら活躍されたことは高く評価され、社協の役割が明確になったのではないかと。

更に、今回の災害を教訓として、各地域地域で安心安全な地域福祉づくりを考える機会として捉えてほしいと述べられておりました。(小野)

地域ケア

在宅ケアチーム員研修会

「こころの健康研修会」

講演する太刀川・土井先生



10月8日(土)、友部公民館で、「こころの健康研修会」が開かれた。これは、社協の地域ケアシステム推進事業と市の「心の健康講座」の共催で行われたもの。

梅崎孝臣会長、山口伸樹市長の挨拶の後、まず、こころの医療センター病院長 土井永史先生から「県立こころの医療センターの役割について」という講演があった。

旧友部病院の改革に取り組んだ「県立こころの医療センター」は、「双方向性の地域連携機能の充実を図り、こころと身体を総合的にみる医療

のモデルとして、県立中央病院との連携協力体制の確立に努めている」と話した。また、これからも、

①地域に開かれた中核病院
②プロを育てる専門病院
③全国に発信する先進病院を
目指し、重点的モデル地区の指定と拡大に努めていくと力説した。

続いて、「こころのサインへの気づきについて」と題して講演した筑波大学大学院講師 太刀川弘和先生は、「うつ病とサイン」「自殺の実態と心理」について説明し、「自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応を図ることができる人(ゲートキーパー)」の必要性を訴えた。また、「笠間を元気にするネットワークづくり」を進めているが、「人のつながりを強めることは、悩める人を救うだけでなく、地域を元気にする。笠間を元気にするためにみんなで手をつなぎましょう」と呼びかけた。

先生方の熱弁に、150人を超える参加者が真剣に聴き入る研修会だった。

(高瀬)

地域ケアシステム 推進事業とは？

高齢者・障害者・乳幼児やその家族など、援助を必要としている方のために地域の皆さんが互いに、あたたかい心で見守り、支えあい、協力し合い、誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らせる地域社会をつくりあげることが目標とした事業です。そして、保健・福祉・医療が連携をとり、総合的にその方に合った様々なサービスを提供していきます。



多くの出席を得た講演会

《講師紹介》



茨城県立こころの医療センター病院長
土井 永史 先生

◆昭和56年東京大学医学部卒
都立荏原病院勤務などを経て、平成19年より県立友部病院長。臨床領域は、器質性精神病、病状精神病、内因性精神病、中毒性精神病各種の睡眠障害、てんかん診断・治療、電気けいれん療法など幅広い領域に精通している。



筑波大学大学院人間総合科学研究科 講師
太刀川 弘和 先生

◆平成5年筑波大学医学専門学群卒。同年 筑波大学付属病院精神神経科入局
栗田病院、北海道厚生病院勤務を経て、平成14年筑波大学臨床医学系精神学講師、平成18年茨城県精神保健福祉センター相談援助課係長、平成19年県立友部病院医務局特任救急部長。平成21年 現職

◆専門は青年期精神医学、精神科救急医療、自殺対策
笠間を元気にするネットワークづくり事務局として活躍

なにあに？

No.9

前号では東日本大震災の特集として、それぞれの立場から体験したことや感想などを掲載いたしました。皆様は何を感じていただけたでしょうか。
さて「社協ってなあに？」のシリーズも9回目となりました。今回は各支所や支部で行っている配食サービスについて紹介します。（皆塚・関・久保田・前島）

配食サービス

ボランティアの協力で、市内のひとり暮らし高齢者などを対象に、手づくり弁当を届けるサービスを提供しています。



プロの料理人・・・！？

友部支所

ボランティアサークル

〈配食なのはな〉

平成2年4月に結成し、会員61人。毎月第2・4火曜日に友部社会福祉会館調理室で一食40円を目安に130食を作り、高齢者に配達しています。

調理終了後、ボランティアが2人1組になり25コースに分かれ、バックづめした味噌汁も一緒に届けます。高齢者宅で一緒に食事することも。かけ紙も手作りです。

ボランティアサークル

〈配食みちくさ〉

男性のみのサークルで平成

7年2月の結成で会員70人。毎月第1・2土曜日の月2回の活動で、友部社会福祉会館調理室で100食を作り、配達しています。メンバーは2班に分かれ、調理と配達を交互に行って、お弁当ができたつたら2人1組で配ります。

市からの補助があり、個人負担は200円です。

利用者の声

「こんにちは！」さわやかな女性の声が玄関に響いた。高齢でひとり暮らしの私は、9月からボランティアサークル「配食なのはな」のお弁当を届けていただいています。季節感、栄養のバランス、薄味と、心をこめて作り、届けてくださる皆様のまごころが伝わる味の良さ、これからも楽しみです。（鯉淵・I）

支部の配食活動

友部地区内6つの支部ではそれぞれ特徴をいかした配食サービスが行われています。

〈宍戸支部〉

毎月第3木曜日に宍戸支部会館で、約75食を作っています。

調理は6班に分かれた女性部が担当し、でき上ったお弁当はこぶしの会（男性ボランティア）が7班に分かれ、絵手紙を添えて配ります。

〈東支部〉

70歳以上のひとり暮らしの方を対象に、年2回あずま会（女性部）のボランティア約20人が行っています。

当日は、友部社会福祉会館にて50食を作り、民生委員や

役員などで安否を確認しながら届けています。

〈中央支部〉

毎月第3金曜日に友部社会福祉会館で、8班に分かれた女性部が調理を行っています。でき上ったお弁当はむつみ会（男性ボランティア）が利用宅へ言葉をかけながら届けています。

〈大旭支部〉

毎月第1・3火曜日に4班に分かれた女性部が調理を担当し、友部保健センターに行っています。

女性部員自らが利用者宅へ届けているお弁当には、友部二小の4年生の子どもたちが書いたかけ紙をのせて配られ、大変喜ばれています。

〈北川根支部〉

女性部員の管理栄養士が作成した年間の献立計画に基づき、毎月第3土曜日に概ね50食を調理し、対象者に無料で配り喜ばれています。

〈大原支部〉

女性部が13地区8班に分かれて、年に12回行っています。支部の特徴としては、料金は無料です。12回の内1回は外出しての食事を楽しんでいます。



ボランティアによる調理風景

“社協”って

笠間支所

笠間地区の配食サービスは月2回の業者のお弁当で食生活を支援し、心のふれあいと安否確認を目的としています。友部・岩間地区では会の手作り弁当が配られていることから、社協の合併に伴いボランティアによる配食サービスの三地区平準化との事で笠間地区でも手作り弁当が出来ないか？検討致しました。調理室の確保や衛生面の心配があり即実行出来ずに居りましたが、とにかくどんな形でも一歩前にと3つのボランティアグループが地区の公民館を利用し「先ず衛生面に充分注意をし、自分達が食べておいしいものはお年寄りと同じ」と暗示をかけ、始めたところ「やはり手作りはおいしい」との声に励まされ月1回楽しみながら作っています。

（船橋）

岩間支所



笠間支所手づくり弁当

平成に変わった頃からでしょうか。ひとり暮らしの方が増えてきました。そんな折、社協職員のひとりが、その方々になんとか温かい手作りの昼食を届けることができないだろうか？ そんな思いをなげかけてくださいました。果たして、ボランティアでどのようにすればよいか、調理場所は、メニューや買い出しは、その他……。真剣な話し合いが何回か続き、試行錯誤で作ったお弁当は本当においしかったです。



温かい弁当を届ける“四つ葉の会”

初めてお弁当を届けることができた時の感動は、今でも忘れられません。あの日から17年経ち、現在は毎週月曜日に4つの調理担当のグループが弁当を作り、おたよりボランティアがかけ紙を、そして四つ葉の会の人達がひとりひとりのお宅に安否の確認をしつつお届けしています。

ひとつのお弁当に込められた多くのボランティアの温かい心が受け取った人の笑顔になりますように……と願っています。（久保田）

ちょっといい話

認知症の予防食

「在宅ケアチーム研修会」（社協だより13号参照）の折り、講師であるケアハウスかさまの山本義則氏から、認知症の発症や進行を遅らせることに有効な食材とその効果についても話がありました。その一部を紹介します。

オリーブ油

*オレイン酸、抗酸化物、ビタミンEなどが豊富

*脂質の異常、血圧や糖の代謝の改善。血液サラサラに

青背の魚（サバ、イワシ、サンマ等）

*DHAなど多価不飽和脂肪酸が多く含まれている

緑黄色野菜

*認知機能の低下を遅らせる作用

クルミ

*生活習慣病の予防や進行の抑制

カレー

*カレーのスパイスに含まれるクルクミンが、脳の神経細胞の損傷を防ぐ

緑茶

*カテキンの効果（生天目）

だより



各支所では秋らしい行事や集いが催され、多くの方々が楽しい時を過ごされました。笠間支所では、パキスタンの子ども達を支援するための古布回収や、ミニディサービス初めての県外日帰り旅行、友部支所では大旭支部の三世代の集いが催された様子、岩間支所では南部地区社協が設立されましたので紹介します。

笠間支所

**「押し入れ」が
世界と繋がる
海外支援**



古布を選別しているボランティア

ご自宅の押し入れが世界と繋がっていることをご存知でしたか？

笠間市ボランティア連絡協議会笠間支部による古布の分別回収が10月20日と21日に行われました。

笠間地区では「新品または中古でも使用可能であり、洗濯のしやすさ、しみ・破れ・

傷みのないもの」を回収しています。回収された大量の古布は、地道な手作業で丁寧を選別され、笠間から遠く離れたパキスタンの子ども達に活用されます。もともとは環境問題のために少しでもゴミを削減するために始めた活動でしたが、その延長線でパキスタンへの人道支援にも役立てられています。

パキスタンでは学校に通えない子どもたちが沢山いるそうです。その子ども達に少しでも教育の機会をつくり、就労への支援をすることで、将来的な問題を根本から教育の力で改善していこうと頑張っている学校が現地にあります。この運営資金にするべく、遠く離れた日本、ひいては笠間において、皆さんから回収した有用な衣料品が役立てられているのです。

古布の分別回収が環境問題だけでなく、パキスタンへの人道支援にも繋がるのです。皆様のご家庭にある状態の良い不要な衣料品などはありませんか？これらが、押し入れを世界に繋げてくれるのです。

(入江)

とろろ温泉

日帰り旅

指導員

平塚 恵美子

毎年恒例のミニディサービス秋の日帰り旅行、今年は9月16日(金)に初めて県外へ出かけ、21人が参加し、栃木県「道の駅はがロマンの湯」へ行って参りました。

約50分のバスの旅、まずは記念写真でハイポーズ。その後は皆様お楽しみの温泉入浴。つるつるして気持ち良し。「美人になっちゃった」とニコニコしながらのご感想です。

お風呂の脇の売店では、おいしいパンや野菜、そして洋服も品定め。こちらにもニコニコ良いお顔で買い物。お昼は湯葉中心の山の膳。「おいしかった」の声に私たちもホッとなりました。

皆様一日お疲れ様でした。



会話もはずみ楽しい昼食

笠間地区のミニディサービスは、65歳以上の高齢者を対象とし地区公民館5カ所を活用して、閉じこもり防止や自立支援(介護予防)を目的に実施しています。地域によって内容に特色があり、1回に15人から30人が利用しています。

スタッフの体制は、指導員2人・看護師2人・さらに地区ボランティア2人が入りまします。一日の流れは、朝の健康チェックの後、入浴や趣味活動・おしゃべり、午後はみんなでレクリエーション(体操やゲーム、歌など)をして過ごしています。



世代をこえて



支所

友部支所

三世代
ふれあいの
つどい
大旭支部
調 朝幸

11月3日、色とりどりの花が咲く友部第二小学校校庭で、5年生の高橋優斗君の「はじめの言葉」で開会されました。校舎、体育館、運動場のそれぞれ3つのブロックに分かれ、お手玉・あやとり・竹馬・ペーゴマ等、全部で17種類の伝統の遊びの他、グラウンドゴルフが用意されました。各会場では、子ども達と父母・祖父母・ボランティアの皆さんが一体となつてゲームを競ったり、物づくりの技に挑戦していました。会場内がはち切れんばかりの熱気に包まれ、交流の輪が広がっていました。各コーナーには五・六年生が、遊び終わった4年生以下の子どもに対して、カードにスタンプを押し、時間内にすべての遊びを体験できるように配慮し、次々と新しいゲーム

に挑戦させていきました。



乗れるかなあ〜

最後に、5年生の土肥晃君より大旭支部のボランティアの皆さん方へ、お礼の言葉とパンジーの苗の贈呈があり、参加された多くの方が、子ども達の明るく、元気で、伸び伸びとした姿に接し、元気をもらつて学校を後にされたのではないかと思います。この集いでは、児童会が中心になつてプログラムの作成、開・閉会式の進行、会場の運営等をスムーズに進めて行きました。このような子ども達の成長に感心すると同時に、これらのことを指導された先生方や伝統の遊びに通じた先輩方の協力が、次の世代に受け継がれていくものと思

岩間支所

『南部地区社協』
設立総会開催
運営委員長
岡野 博之

手を取り合つて
明るい幸せな

地域福祉を目指して

旧岩間町の南部に位置する5地区（中村・市野谷上・市野谷中・市野谷下・平）201世帯、825人による「南部」地区社会福祉協議会が去る9月4日発足いたしました。

以前より平区は、地区社協を結成しておりましたが、地域活動の拡大を目的に、旧岩間町時代に町民運動会や駅伝大会等で「南部」地区として一緒に活動してきたこともあり、各地区の役員の方々の賛同を得て「南部地区社協」として設立し、一層交流を図っていくこととなりました。地区内多くの皆様方と



熱心に聞き入る長寿部会の方々

が出来ることを祈っております。11月には「南部地区社協だより」創刊号を発行しました。また、第1回目の事業として、11月26日に地区交流会を開催しました。63人が参加しました。まちづくり出前講座を活用した「市長出前講座」では、市長を講師として市政全般についてお話をいただきました。みんな喜んで「向こう三軒両隣」の精神で、手を取り合つて明るい幸せな地域福祉を目指してまいります。

善意の寄附を「ありがとう!!」(善意銀行預託)

平成23年7月1日～平成23年10月31日まで(順不同・敬称略)

物 品

使用済切手	仲田盛商店、柳常陸鋳造工業所、 (財)合気会茨城支部道場、 笠間地区民生委員児童委員協議会、 中根 光代、常陸稲田砕石機、 別れの一本杉地蔵尊、飯田自動車街、 仙波建設機、不二製油柳間東工場
紙おむつ	水越 幸夫
エコキャップ	いわま保育園、ファミリーマート友部東平店、 福田保育所、大沢保育園、めぐみ保育園、 ともべ保育園、興野 哲雄、三村 義一 すみれ幼稚園、不二製油柳間東工場、 笠間市立友部小学校児童会、花水木、 イチカワユニオン岩間支部、 県立友部高等学校JRC部、 森田屋 入江 勇太
エコキャップ、ブルタブ	岡野 晋也、福田中学校、 笠間市立友部小学校児童会、 下安居婦人防火クラブ、おしの保育園 笠間いきいき市場運営委員会、
ブルタブ多数	佐伯の館、御伊藤石材工業、 額田 義文
ボトルキャップ4,800個	てらざき保育所
使用済テレホンカード	中根 光代
使用済クオカード	ファミリーマート友部東平店
未使用はがき320枚	ありんこ
雑巾200枚	高齢者クラブ原宿会
未使用タオル	茨城県退職公務員連盟笠間支部友部地区、 茨城県退職公務員連盟笠間支部笠間分會、 茨城県退職公務員連盟笠間支部岩間分會
うちわ多数	藤枝 久美子
使用済切手588枚、はがき16枚、 テレホンカード122枚	笠間幼稚園PTA
使用済テレホンカード、エコキャップ	加藤 幸恵

ソフトメン2000食	柳笠間ソフトメン橋本屋
じゃがいも	美留町 文男、青木 章、田山 てる
かぼちゃ多数	下市毛なたねの会
さつまいも多数	愛の里
玄米	山本 照明

未使用はがき、使用済テレホン
カード、エコキャップ、タオル、
子供用自転車、紙おむつ、リハビリ 園 名
リバンツ、台所用品、電動ベッド、
車イス、醤油、玄米

金 銭

オカリーナともべ	¥5,000
常井 鞠代	¥1,562
御飯田自動車	¥20,593
ツバメの会	¥3,790
おかみさん会	¥8,051
大原中学校昭和32年度卒業同窓会	¥30,500
日本盆裁協会笠間支部 支部長 堀田満夫	¥6,000
野口 貴	¥200,000
東日本大震災チャリティー音楽会実行委員会	¥27,862
下押辺高砂会	¥3,075
(財)合気会茨城支部道場 植芝 充央	¥10,000
青木勇一歌謡教室	¥30,000
笠間市チャリティーゴルフ大会実行委員会	¥125,066
別れの一本杉地蔵尊	¥421
穴戸塾	¥560
柳山千歳会	¥2,761
特定非営利活動法人 ボブラクラブの会	¥10,000
園 名 7件	¥51,263

訂正とお詫び

平成22年度赤い羽根歳末たすけあい募金運動の報告書の中で誤りがありましたので、お詫び申し上げ訂正させていただきます。

〈岩間地区赤い羽根〉

北根西0円→27,000円

光西寺ミサワホーム35,000円→8,000円

今年は痛ましいことに激甚災害の年になってしまいました。3・11の未曾有の大地震と大津波、これによる原発の崩壊と放射能の拡散と汚染、秋には台風がもたらした大雨による甚大な水害が発生しました。いずれの被害もその規模と被災状況は想像を絶するものがあります。

来年こそは災害のない良い年になることを願うばかりです。

(鈴木)

編集後記

平成23年度 心配ごと相談所開設日程表

日常のお困りごとなどご相談下さい(無料・秘密保持)

時 間：13:00～16:00

場所	笠間支所 (毎週火曜日)	友部支所 (毎週水曜日)	岩間支所 (毎週木曜日)
月	笠間保健サービスセンター	友部社会福祉協議会	岩間保健センター
平成24年			
1月	10日・17日・24日・31日	4日・11日・25日	5日・12日・19日・26日
2月	7日・14日・21日・28日	1日・8日・15日 22日・29日	2日・9日・16日・23日
3月	6日・13日・27日	7日・14日・28日	1日・8日・15日 22日・29日

法律相談 ※予約が必要になります。お問い合わせください。

笠間支所	友部支所	岩間支所
第3金曜日 10:00～12:00	第1金曜日 10:00～12:00	第2金曜日 10:00～12:00

お問い合わせ先

社会福祉法人
笠間市社会福祉協議会

友部支所 0296-77-0730
笠間支所 0296-73-0084
岩間支所 0299-45-7889